手な子供は之でも結構楽しめるらしい。

## スケート

スケートはこの二三年とても普及して来た。物資が豊かに出廻って、スケートが比較的安く入手出来るからであると思う。街の子供達は編上げ靴に打ちつけた正式のスケートよりも、むしろ普通の靴の上に丁度ローラースケートと同様に縛りつけるスケートを使うがこれは安いからである。スケートリンクでは勿論であるが、雪の少い地方で田圃や川の上でスイスイと辷っている。又市街地の街路の雪が昼間解けた後夜凍ったような時は街路上でしきりに辷っている。自動車の通る大通りでもバスやトラックの走る相間に敏速にスイスイと辷っている。アイスホッケーの真似ごともやっている。これは苫小牧や室蘭にある日本でも一流のアイスホッケーチームの真似である。ゴンチャレンコとかアンデルセンとか云う名前を口にしながらやっているのはこの前札幌で開かれた世界スケート選手権大会に刺戟されてのことである。これ等誠に豪放なスケートというスポーツは男の子等の最も憬れるもので、この子供等の中から将来日本の世界的選手やアイスホッケー選手が必ず出ると思われる。ただ長靴の上にスケートを縛りつけて力一杯辷るからどんな新しい長靴でもしばらくすると足の甲の中程のところで破れてしまう。これがその子の母親の嘆きの一つであるらしい。

暖い地方でのお正月の代表的な遊びと言えば羽根つきと凧揚げがすぐ念頭に浮んで来る。しか寒い地方では羽根と羽子板とを買ったところで、気温も高くすっかり雪どけのなくなった初夏にならなければやるすべもなく、ただ床の間に押絵の羽子板を飾っておくのが精々であるし、凧も亦冬の遊びには絶対に不向きで漸く真夏である七月、八月の頃、弄具屋の店頭に凧の小さいのが売出され、広い草原では奴凧やだるま凧が低い空で愛嬌を見せている位のものである。室内ではストーブがぬくぬくと焚かれていて東京の子供のようにかじかんでいることはなく、かるたもすごろくもお手玉も暖い国の子供と変ることがなく楽しまれているが、何といっても北国の特色ある冬の遊びは寒さを忘れて大自然の中に融込んでの勢ましい運動であると思う。

（知利別幼稚園）

---

# 冬の北陸

まつむらいさむ

冬――といえばすぐに暗い陰うつな空や吹雪を思い、穴ぐらのような閉ざされた生活を追想して、いやな消極的な気持になる。しかしこれはつねに流転する自然の姿に惰性的な感覚しか持てないおとなのことである。子供は四囲の変化に敏感であり、しかもそれをたのしんでいるのに驚かされる。どんなに寒くも吹雪いていてもそんなことには一向平気である。子供はいつも新鮮に生きている。

**お正月**――ふつうの家庭におけるお正月の喜びはまずおぞうにからはじまる。この地方のおぞうには、みそしるの中で餅を煮て、それにかつをぶしをけずってかけて食べるのであるが、それは子供たちにとってもなつかしくておいしい正月の味なのである。

――わたしはおもちを二つたべた。

――ぼくは四つもたべた

食べたおぞうにの数が子供たちの興味ある話題にのぼるくらい、正月のおぞうには印象がつよい。

女の子にとってお正月のあこがれの一つはキモノである。一年の子の作文に、

きょうは、なのしいお正月です。わたしは学校からかえるとちゆうにみんな小さい子らがきれいな長たもとのきものをきています。わたしはうちへかえって、すぐきものをきようと思いました。

うちにはいってみると、おかあさんはわたしの長たもとのきものを出してまっていました。わたしもさっさとおかあさんに長たもとのきものをきせてもらってリボンをさして、なおみちゃんをだっこしてあげたら、わたしのリボンをなぶってばかりいたので、わたしはなおみちゃをおろして、いく子ちゃんのところへあそびにいきました。

というのを見ても、いかにいいキモノにあこがれているかがうかがわれる。いいキモノを着て、はねつきをしたりかるたやすごろくあそびをしたりすることで、お正月気分を十分に満喫しているのであろう。

一月一日　はれ　　吉田　文子

きようはたのしいお正月です。そらはとてもよくはれています。わたしはおぞうにを三つたべました。それからがっこうへいった。みんないっしょにこえをあわせてせんせいおめでとうといったら、まつむらせんせいはにこにこがおで「みなさんおめでとう」とおっしゃいました。うちへかえってからおたものおべべをきました。おねえちゃんといっしょにはねつきをしました。よるはおとうさんやおかあさんとすごろくやとらんぷをしました。とらんぷのばばとりをしたときは、わたしに三べんもばばがくるのでわたしはなきたくなりました。がんじつそうそうからなくとみんなにわらわれるのでがまんをしてなきませんでした。

雪と子供――おとなにとっては生活の脅威である雪も、子供たちにとっては冬の遊びになくてはならない親しい友なのである。雪が来ると、子供たちは犬の子のように戸外にとび出して雪とたわむれ、つもった雪でいろんな運動や芸術をたのしんでいる。

子供がしている雪遊びを挙げてみると、

雪なげ、雪合戦、雪おにかいぼ、雪すべり

などがあり、雪を素材として作る芸術には

雪だるま、雪人形、雪うさぎ、すべりだい、雪自転車、ほらあな

などがある。これらの遊びを一年の子供たちの絵日記から拾って紹介してみたい。

ぼくはねえちゃんとつとむさんとそれ

だけですべらんこ（すべりだい）をつくってあそびました。そしてぼくはうちへはいってすきーをとってきました。ぼくははじめだからすべってころぶかもわからないなとおもってすべったらすってんころりんところんでしまいました。

子供はすべって走ることに大きなスリルを感じるようだ。スキーのない子は、ござをしいてその上に坐ってすべったり、木箱の中に入ってすべるものもある。何度ひっくりかえってもあきないでやっているのが子供の姿である。

ぼくはこうちゃんといっしょに雪をかきあつめてたくしーをつくりました。かっこうをとってから、たくしーのまどやいりぐちやすわるところをつくりました。すっかりつくってからこうちゃんとぼくとふたりでたくしーの中にはいりました。しばらくするとしようちゃんが「ぼくにもいれて」といってきたので、しようちゃんもいっしょにいれてあげました。

子供たちはばんば（木で作った雪かき）を持って、彫刻家が彫刻をするように丹念に作っている。自動車であろうが船であろうが立ちどころに作られていく。しかもこれらの作品はグループの力で協力して作られるところによさがある。みんなで作り上げる過程とそれをつかって遊ぶのが何よりのたのしみのようだ。

きようむらかみくんとまんぷ（とんねる）をつくりました。ぼくはあせいっぱいになりました。うちへはいってこたつで本をよみました。またそとへでると、まさとちゃんもまんぷをつくっていました。

わたしはおにいさんとうちでまるくゆきをつんであなをほってからうまくいたをしいてできてからあなのなかへはいりました。おにいさんもはいりました。あなのなかには四にんほどはいられます。わたしはうれしくなって三十ぷんほどはいりました。

雪で作ったとんねるやほらあなの中は子供だけのたのしい世界である。よく子供たちがその中でままごとしているのを見かけることがある。中は寒くてせまくても子供の作ったうちはいかにもたのしそうである。

凍て雪を対角線に行く子供ら黒鳩の如く

この句は雪が凍った二月はじめのある朝のこと、私の眼に映った一点景である。気温が氷点下になると積雪の表面がかたくなって、その上を歩いたり走ったりすることができるので、子供たちは道のないところでも田んぼの上でもどこでも広々とした雪原で思う存分走り廻って遊ぶことをたのしむのである。こんな冷たい日には子供たちはマントの帽子か防寒頭巾をかぶっているので、遠くから見るとちようど黒鳩が群れているように見えるのである。

その他――室内での遊びとして、まりつきなわとび、お手玉、あやとりなどがある。あたたかいこたつに足をぬくめながらあやとりをして冬の夜長をたのしむのも、子供の世界であろう。

以上述べた冬の遊びは、私の眼に映じた子供の世界を描いたのであって、まだこの他にもいろいろな遊びがあるかもしれない。

子供はその風土や環境に即して自由な創造をいつもはたらかせている。おとなが逃れたいと思っている「冬」を彼等は喜んで迎え、その中に没入し切って十分に「冬」をたのしむことのできる新鮮さを持っている。

（福井大学学芸学部附属小学校）

---

# 冬の北九州

笠井久子

暖国九州は、雪国の方々の、想像もつかない様な事があります。

毎年十一月中旬より、翌年三月頃まで、霜を見ますが、其の間、厳寒といはれるのは、一月より二月十日頃までにて、正月に雪が降れば、非常に、珍らしい位で、一冬通して、三、四回位しか積りません。其の内、よく降り積って、十糎程度ですし、而かも、温度が零度以下になるのは、冬期も一、二月頃の夜明け頃で、日の出と共に、暖まり、三、四度位が、厳寒期の気温です。従って、当地方の児童は、雪国の、なだれの恐ろしさや、屋根まで以上の積雪は、写真以外には、見た事がありません。又寒気についても、零度以下、十度とか、二十度とかいう寒さが、どんなものであるのか知らないのです。

そのため、冬籠りという事がありません。元気な児童は、年中屋外で遊べるのですが、それでも矢張り、冬ともなれば、活動は鈍り（屋外は、雨の為地面が、乾かない日が多くなる）ストーブや、火鉢が、恋しくなり、室内の生活が多くなりがちで、消極的な幼児は戸外の遊びを嫌い、外気に解れる機会が少くなり、一層抵抗力を弱める原因になります。常に厳寒にも耐へ得る丈夫な体力は、初秋の頃から、薄着の習慣をつけ、屋外で、出来るだけ遊ぶ様、注意しなければなりません。

**屋外の遊びの第一は雪合戦です**　年に一度位は、雪が十糎位積りますと、大変です。空模様で雪だろうと思われる日は、大人も小児も、明日はどうぞ、雪がたくさん降る様にと、祈ります。朝雪を見ると、早くから、特に小児は騒ぎ出し、早速のおだんごや、雪のごはんが出来ますが、起きると、雪合戦が初まります。街角には、雪だるま、雪うさぎ等が竝びます。

二階の屋根まで登り、雪をかき集めますが雪が足りなくて、泥混じりの雪玉が飛ぶありさまです。いくら歌を唱っても、仲々雪は降って呉れないで、折角の、雪だるまも其内御日様に溶けて消えてしまいます。

然し子供達には、此の時ばかり、自然観察の方面から力を入れてよく指導します。

**第二は凧上げです**　お正月の野外での遊